重文札幌農学校第2農場農機類標本台帳

一般名称: ホイールトラクタ	現地の通称: ニューフォードトラクタ

資料種別: ◉製品-実物 ○製品-レプリカ ○製品-模型 ○製品図面 ○写真等 ○図書掲載 ○その他

資料種類: 動力・分野	☐人力用具 ☐耕起前器具 ☐管理防除 ☐貯蔵関連 ☐畜力用具 ☐耕耘用具 ☐収穫機 ☐施設類 ☐原動機具 ☐整地用具 ☐調製機器 ☐機素 ☒トラクタ用機 ☐施肥播種 ☐加工機器 ☐その他	管理プレートNo. 牝牛舎204 台帳No.

製作者・会社: Ford Motor Co. Ltd. 製造市・国名 アメリカ

製造年_購入年,標本収集年: 昭和30年マサチュウセッツ大交換教授デュレーク氏により北大搬入

使用目的・使用方法等

車輪型トラクタ　当時は、作業機を付ける三点ヒッチの油圧機構が上昇・下降の単純な構造（プラウはフローティング状況で牽引）であったが、本機は、他機種に見られないPosition－Control、Draft－Controlを装備し、プラウ耕が円滑に行えると好評であったため、その後のトラクタにPosition・Draft－Controlを装備する気運を盛り上げた。

利用経過_収集記録_意義等

北大（農学部）は、1956年の創基８０周年を記念してクラーク先生ゆかりのマサチュウセッツ大学と交換教授条約を締結し、相手は家族連れで数年、当方は6名内外の先生が単身で1年滞在する方式であった。まだ日本国の外貨の利用制限が厳しく、海外渡航が困難な時で農学部教授らの海外研修に大きな成果を上げた。アメリカから最初に来日したのがデュレーク氏家族であり、トラクタを始めにプラウ・ドリル・カルチなど一連の農業機械を持ち込み、農場のトラクタ機械化に大きな貢献をした。特別輸入で市場を経ないで搬入したが、整備関係は北海自動車が担当した。

仕様書_解説等

右に全体図

Ford 641 Work master ４輪トラクタ、
Position－・Draft－Controlを標準装備
前進4段（6、8、11、22Km/h）、後進１段
前輪6ｘ16in、後輪11ｘ20in、
全幅1320～1930mm、全高1450mm、
軸距1910mm、全重1247Kg、
機関：最大出力31Ps/2000rpm、
4Cyc.-4Cyl.　Cyl内径87.3mm、行程91.4mm

写真下３番目はドラフト制御、４番目は米国の援助品マーク

外観特色関連図等

資料の所在

牝牛舎

資料への特記事項

資料管理経過

作業メモ・上掲欄の超過文追記

Ford社の車輪型トラクタ歴史：1917 年に自動車で成功を収めたヘンリーフォードは、10 年の試作期間を費やし、突如「フォードソントラクタ」を発売して農業分野へ進出。1952 年にフォード乗用車を扱う札幌の北海自動車は、農機具部を設けてFord トラクタの販売を開始。なお、1954 年に東急自動車は、Masay Furgusonの販売を開始した。
1952-1958の普及台数は、Ford製品全体で86台、全トラクタの12%、その内でニューフォード40台、ジーゼルエンジンとなったメジャー型とデキスタ型で42台である。

台帳管理番号